

著者紹介（掲載順）

岩内章太郎（いわうち・しょうたろう）

一九八七年生まれ。早稲田大学院国際コミュニケーション研究科博士課程。

峯尾幸之介（みねお・こうのすけ）

一九八九年生まれ。早稲田大学院国際コミュニケーション研究科修士課程修了。現象学、近代美学。

石川輝吉（いしかわ・てるさち）

一九七一年生まれ。哲学者。桜美林大学、日本社会事業大学非常勤講師。著書に『カント信じるための哲学』（NHKブックス）、『ニーチェはこう考えた』（ちくまプリマー新書）など。

金泰明（キム・テミョン）

一九五二年大阪生まれの在日コリアン二世。大阪府八尾市在住。現在、大阪経済法科大学法学部教授。著書に『共生社会のための二つの人権論』（トランスビュー）、『欲望としての他者救済』（NHKブックス）、『人権は二つの顔をもつ』（トランスビュー）他。

竹田青嗣（たけだ・せいじ）

一九四七年大阪生まれ。早稲田大学国際教養学部教授。哲学者・文芸評論家。文芸評論、思想評論とともに、実存論的な人間論を中心として哲学活動を続ける。フッサール現象学を基礎として、哲学的思考の原理論としての欲望論哲学を構想。

苦野一徳（とまの・いっとく）

一九八〇年生まれ。哲学者・教育学者。熊本大学教育学部講師。早稲田大学院教育学研究科博士課程修了。博士（教育学）。著書に『自由』はいかに可能か』（NHKブックス）『教育の力』（講談社現代新書）『勉強するのは何のため？』（日本評論社）『どのような教育が「よい」教育か』（講談社選書メチエ）など。

中森康之（なかもり・やすゆき）

豊橋技術科学大学准教授。「人間が日常を生きるのを支える力とは何か」をテーマに、文学、思想、建築等を研究。著書は『蝶夢全集』（共編、和泉書院）、『俳句の詩学・美学』（共著、角川学芸出版）、『知識ゼロからの哲学入門』（共著、幻冬舎）など。

山竹伸二（やまたけ・しんじ）

一九六五年生まれ。著述家・評論家。著書に『認められたい』の正体』（講談社現代新書）、『本当の自分』の現象学』（NHKブックス）、『不安時代を生きる哲学』（朝日新聞出版）、『子育ての哲学』（ちくま新書）など。